

皮膚の病気

# アトピー性皮膚炎

かぶれとは違う

激しいかゆみが、良くなったり悪くなったりを繰り返しながら長く続く「アトピー性皮膚炎」。かぶれが一過性のものであるのに対し、アトピー性皮膚炎は、長期にわたってかゆみに苦しめられる。

そもそも「アトピー」とは「とらえどころのない」という意味。皮膚科の山西清文主任教授は「大人になつたら治る」といわれていますが、50〜60代になつても症状が改



皮膚科 山西清文 主任教授

善しない例もあります」と話す。

年齢を問わず、体のさまざまな場所に出現する皮膚炎といえるが、湿疹の出る部位には年齢層によって特徴がある。乳児期には顔、学童期になると肘や膝の内側、思春期から大人になると全身に広がる傾向がある。「これはあくまで一説ですが、赤ちゃんのときは顔や手の届く範囲、もう少し大きくなると汗をかきやすい部位、そして大人になると『ストレス』という要因が加わることで、顔面から全身へと拡大するのではないかと見られています」。

原因は不明だが…

アトピー性皮膚炎の主な判断基準は、①かゆみが強い、②湿疹が長

ゆみを誘発することから、入浴やシャワーで肌を清潔にする。入浴後は肌が乾燥しやすいので、保湿剤などで乾燥を防ぎ、肌をしつかり保護する。

◆要因となるものを遠ざける

ダニ、ハウスダスト、カビなどが症状悪化の要因となるといわれているので、こまめな掃除で住まいをきれいに保つ。また、カレーやトウガラシなど発汗を促す食事はなるべく控える。心理的なケアによって、ストレスを取り除くことも重要だ。

◆薬による治療

ステロイドとタクロリムスが塗り薬として主に使われ、内服薬として抗アレルギー薬が併用される。ステロイド外用

薬は炎症を抑える作用が強く、症状の改善も早い。効き目の強いタイプ、弱いタイプがあり、兵庫医科大学病院では皮膚炎の程度や部位によって使い分け

## ■スキンケアのコツ

- 入浴やシャワーで汗や汚れを落とす
- 肌を強くこすらない。低刺激性の石けんを泡立て、手で洗う(シャワーだけでも良い)
- 乾燥を防ぐため保湿剤を塗る(薬は用法、用量を守ること)  
\*回数を守れば重ねて塗っても大丈夫なので、必ずしも無理に薬を洗い落とす必要はない

よくある誤解

治療にはいまだに勘違いや誤解があり、正しく取り組んでいない

る。デリケートで薬を吸収しやすい部位、角質が分厚く薬を吸収しにくい部位には、それぞれ強さの違うステロイド薬で対処している。タクロリムスは、顔面の症状を中心に用い、皮膚炎の再燃の抑制にも使っている。

症状が重度の場合は、免疫をコントロールする内服薬であるシクロスポリンが使われる。ただし、腎障害などの副作用が出る可能性があるため、医師による経過観察のもと、通院しながら服用する。

く続く、③年齢層による湿疹部位の特徴、の3点だ。しかも、一度症状が落ち着いても、何かのきっかけで再発することも多い。

一方、アトピーと間違われやすい疾患としては、遺伝が原因の「ネザートン症候群」、皮膚の角質が厚く、剥がれにくくなる「魚鱗癬」、虫が原因の「疥癬」のほか、ごくまれに「悪性リンパ腫」でも同様の症状が出る場合がある。自己判断せず、きちんと受診することが大切だ。なぜアトピーになるのか、原因はよくわかっていないが、生まれつき皮膚が過敏で、ちよつとした刺激でも皮膚炎を起こす人がなりやすいとされる。さらに、ここ数年の研究で、皮膚のタンパク質が異常をきたしていることもわかってきた。

「世界的な調査によると、アトピー患者の約20%にフィラゲリンというタンパク質の異常が見られました。そういった方々は、角質の保湿機能が下がっていると思われれます」。つまり、皮膚のバリア機能が低下しているために、わずかな刺激や異物に反応し、かゆみが起こりやすいとみられる。

ために症状が悪化することが少なくない、と山西主任教授は話す。

まず、スキンケアに関して、肌を清潔に保とうとするあまり、洗浄作用の強いソープを使ったり、ゴシゴシこすったりする、といったケース。「これらは、肌に強い刺激を与えるため逆効果。低刺激性の石けんを十分に泡立て、手で優しく洗うのがコツです」。

もう1つが、薬への誤解だ。「ステロイド外用薬を使うと肌が黒くなる、湿疹がかえってひどくなる」という話がいまだにあります。確かに、ニキビ(ステロイド痤瘡)、血管拡張、表皮の萎縮、紫斑といった副作用はありますので、皮膚科医の適切な管理のもとに使用することが大切です。皮膚炎が治る時に一時的に皮膚に色素沈着が起こりますが、これは皮膚の修復過程で起こる生理的な現象であり、ステロイド薬の直接的な副作用ではありません。適量をきちんと塗れば、早く症状が改善しますので、お薬を使う期間が短縮でき、副作用が出る前に症状を軽くすることができます」。

主な治療法は3つ

原因がはつきりしていないために、これまでさまざまな治療が入り乱れ、混乱を招いてきたが、最近では治療法の整理が進み、次の3つが「標準的な治療」として行われている。

◆スキンケア

皮膚を清潔に保つことと、肌を十分に保湿することがケアの二本柱。汗をかいたり肌が汚れていたりとすると、それが刺激となつてか

## ■治療の三本柱

- スキンケア**
  - ・皮膚を清潔にする
  - ・十分に保湿する
- 要因を遠ざける**
  - ・住まいをクリーンに保つ
  - ・刺激のある食べ物は避ける
  - ・心理的なケア
- 薬**
  - ・ステロイド、タクロリムスなどの外用薬
  - ・抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬の内服

新たな治療につながる発見

兵庫医科大学病院はこのほど、アトピー発症のメカニズムに関する新発見を発表した。「アトピーになると、皮膚の細胞にインターロイキン33(IL33)という物質が増えることはわかっていたのですが、それがアトピーの皮膚炎やかゆみにどう影響するのかまではわかっていませんでした。しかし我々の研究によって、皮膚のIL33産生増加がかゆみの原因となるヒスタミンを増やすとともに、新しく発見された「2型自然リンパ球」を活性化し、アレルギー性炎症に関わる好酸球を動員してアトピー性皮膚炎を引き起こすことが明らかになりました」。

つまり、IL33の作用を抑える治療法が見出されれば、アトピーの発症自体を抑制できるかもしれない、ということだ。兵庫医科大学病院のこの発見によって、アトピー性皮膚炎の治療に、新たな光明が見えてきた。

## 診療最前線

- アトピー性皮膚炎
- がん
- 目・耳・鼻・口の病気
- 胃・腸・食道の病気
- 呼吸器の病気
- 骨・関節の病気
- 脳・神経の病気
- 皮膚の病気
- 肝臓・膵臓・胆嚢の病気
- 腎臓・泌尿器の病気
- 循環器と血液の病気
- 全身の病気
- こころの病気
- 女性の病気
- 子どもの病気